

令和2年度(2020年度) あまっ子ステップ・アップ調査の結果について

1 調査目的

学校は、児童生徒の学力と学習状況を把握することで、一人一人に応じた指導の充実や学習状況の改善を図る。また、教育委員会は、教育施策の成果と課題について検証し、その改善を図ることで、教育活動に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容ごとの人数(人)

学年	学力調査					生活実態調査
	国語	算数・数学	英語	社会	理科	
小学1年生	3,291	3,291	/	/	/	3,302
小学2年生	3,306	3,304				3,335
小学3年生	3,349	3,351				3,382
小学4年生	3,338	3,338				3,357
小学5年生	3,316	3,318				3,337
小学6年生	3,435	3,433				3,458
中学1年生	3,045	3,046	3,047	3,048	3,048	3,059
中学2年生	2,876	2,875	2,874	2,878	2,875	2,882

3 実施日

小学校…令和2年12月9日(水) / 中学校…令和3年1月13日(水)

4 学力調査の概況

学習指導要領に示されている目標や内容に照らしたテスト形式の全国共通の問題で、基礎的・基本的な内容(約70%)、発展的な内容(約30%)の定着度を調査した。

表1と表2については、同一母集団で昨年度の結果と比較した。

尚、同一母集団とは、同じ学年集団(例えば、2018年度は小4で2020年度の小6)を指す。

【表の見方】

学力層別人数割合・・・全国の総受検者(人数非公表)を得点順に25%ずつA～D層に分け、本市においてどの層にどれだけの人数がいるかを表した割合(%)

達成率・・・「目標値」に達している児童生徒の人数割合(%)

目標値・・・各教科において「おおむね満足」といえる正答率(%)。その水準まで定着できていれば、次の学習内容に進むことができる目安として、設定されている。

(1) 小学校

表1 小学校における達成率と学力層別人数割合

		達成率 (%)	2020年度 学力層別人数割合 (%)					
			A層	B層	C層	D層		
一年	国語	70.5 (-)	21.8 (-)	23.1 (-)	25.2 (-)	30.0 (-)	2020	
	算数	67.3 (-)	19.6 (-)	23.9 (-)	24.4 (-)	32.1 (-)	2020	
二年	国語	74.4 (0)	26.4 (+6.6)	19.4 (-4.5)	25.3 (-0.7)	28.9 (-1.4)	2019 2020	
	算数	70.5 (+7.1)	20.2 (+4.2)	23.6 (+3.1)	28.0 (+0.3)	28.3 (-7.4)	2019 2020	
三年	国語	70.1 (-10.8)	24.1 (-3.0)	24.8 (+3.2)	24.3 (-1.6)	26.8 (+1.5)	2018 2019 2020	
	算数	69.9 (-1.5)	24.9 (+0.3)	24.8 (+1.0)	24.5 (+0.3)	25.8 (-1.6)	2018 2019 2020	
四年	国語	67.9 (+1.0)	21.7 (+0.8)	24.3 (-0.1)	25.1 (-0.8)	29.0 (+0.2)	2018 2019 2020	
	算数	68.6 (+4.6)	23.4 (+0.8)	24.7 (-1.3)	26.7 (-0.8)	25.2 (+1.3)	2018 2019 2020	
五年	国語	72.3 (+3.8)	24.3 (+2.6)	23.9 (+0.6)	24.8 (-0.6)	27.0 (-2.6)	2018 2019 2020	
	算数	62.7 (-1.5)	23.6 (+0.9)	23.8 (+1.2)	27.7 (-0.1)	25.0 (-1.9)	2018 2019 2020	
六年	国語	73.6 (+11.9)	22.1 (+2.2)	24.5 (+2.1)	26.5 (-0.7)	26.9 (-3.5)	2018 2019 2020	
	算数	71 (+11.5)	25.3 (+3.2)	23.7 (-0.6)	25.4 (+0.5)	25.6 (-3.1)	2018 2019 2020	

※カッコ内の数値は同一母集団（例：今年度の小4と昨年度の小3）における昨年度との差を示す。

(2) 中学校

表2 中学校における達成率と学力層別人数割合

		達成率 (%)	2020年度 学力層別人数割合 (%)					
			A層	B層	C層	D層		
一年	国語	66.8 (+3.4)	22.4 (-0.8)	24.4 (+1.9)	27.9 (+3.9)	25.2 (-2.6)	2018 2019 2020	
	数学	70.9 (+1.0)	27.5 (+1.1)	26.4 (+2.1)	22.5 (-1.5)	23.5 (-1.8)	2018 2019 2020	
	英語	60.0 (-)	30.0 (-)	24.0 (-)	23.3 (-)	22.7 (-)	2020	
	社会	54.8 (-)	21.0 (-)	24.2 (-)	26.8 (-)	28.0 (-)	2020	
	理科	55.5 (-)	24.2 (-)	22.1 (-)	24.0 (-)	29.7 (-)	2020	
二年	国語	68.8 (+8.9)	24.5 (+1.9)	24.6 (-0.3)	25.2 (-0.5)	25.7 (-1.1)	2018 2019 2020	
	数学	63.6 (-3.0)	26.7 (0.0)	24.7 (-0.4)	23.3 (-1.3)	25.3 (+1.8)	2018 2019 2020	
	英語	57.6 (+2.9)	27.5 (+1.3)	26.1 (+1.4)	23.6 (+0.1)	22.8 (-2.8)	2019 2020	
	社会	53.0 (+3.5)	18.9 (-3.9)	22.3 (-1.6)	24.4 (-0.8)	34.4 (+6.3)	2019 2020	
	理科	55.0 (+0.7)	22.4 (-0.1)	22.7 (+0.3)	25.3 (+1.6)	29.6 (-1.7)	2019 2020	

※カッコ内の数値は同一母集団（例：今年度の中1と昨年度の小6）における昨年度との差を示す。

5 生活実態調査の概況

アンケート形式（主に4択）で、「①学びの基礎力、②社会的実践力、③学級力、④家庭学習力」の4つのカテゴリーに基づく質問項目について調査した。

表3と表4については、同一学年で3年間の結果を比較した。

尚、同一学年とは、昨年度と同じ学年（例えば2018年度の小4と2020年度の小4）を指す。

表3 生活実態調査におけるカテゴリー別 平均スコア

	意識調査平均スコア											
	①学びの基礎力			②社会的実践力			③学級力			④家庭学習力		
	2018	2019	2020	2018	2019	2020	2018	2019	2020	2018	2019	2020
小1	79.7	78.8	80.9	87.3	86.1	86.6	85.6	83.8	85.9	88.1	87.8	88.9
小2	77.6	78.6	78.2	86.6	88.1	84.6	79.6	80.8	80.5	91	91.8	91.5
小3	70.1	70.5	72.4	68.9	70.3	72.5	75.8	76.1	80.6	76.1	76.7	78.6
小4	63.1	65.8	65.9	62.2	65.4	65.4	67.2	69.4	71.8	68.5	71.4	71.6
小5	62.4	63.2	65.4	60.9	62	64.3	62.4	65.3	69.3	66.2	67.4	69
小6	63.1	63.4	64	62.4	62.6	63.8	64.1	62.2	66.1	65.2	64.7	66

	①学びの基礎力			②社会的実践力			③学級力			④家庭学習力		
	2018	2019	2020	2018	2019	2020	2018	2019	2020	2018	2019	2020
中1	58.3	59.3	60.1	54.8	56.5	57.5	54.7	57.4	59.2	58.0	59.7	60.1
中2	56.4	57.2	59.4	53.9	55.5	57.5	54.8	56.4	59.6	54.4	53.9	57.6

【表の見方】

平均スコア・・・各質問の回答を「とても：3、まあ：2、あまり：1、まったく：0」で数値化し、カテゴリー別に0～100の間になるように数値化した値。スコアが大きいほど、肯定的な回答が多かったことを表している。

表4 注目する質問項目と肯定群回答割合

質問項目	学年	2018	2019	2020	カテゴリー
パソコンやインターネットを使う。	小3	48.4	48.4	56.5	①学びの基礎力
	小4	46.3	50.4	58.6	
	小5	64	63.2	72.3	
	小6	73.9	76.5	81	
	中1	78.3	82.6	87.5	
	中2	82.2	84.2	89.5	
社会で問題になっていることについて、どうすればよいか、考えたことがある。	小5	55.9	58	66.1	②社会的実践力
	小6	54.6	60.6	66.9	
	中1	44.9	48.3	61.7	
	中2	42.7	46	60.7	
友だちをばかにしたりからかったりせず、一人ひとりの心や命を大切にす学級です。	小3	56.8	57.4	69	③学級力
	小4	56.9	58	70.1	
	小5	41.6	49.4	64.9	
	小6	44.5	43.5	60.7	
	中1	42.4	52.8	64.9	
	中2	48	51.4	67.9	

6 結果のまとめ

(1) 学力調査

達成率の向上

表1・表2において、同一母集団における達成率（目標値に達している児童生徒の人数割合）の昨年度から今年度にかけての推移をみると、多くの学年と教科で向上する結果であった。特に、小6では、国語・算数のどちらの教科においても、昨年度より10ポイント以上の大幅な向上がみられた。

（なお、小6が小4時の達成率は、国語：46.9%、算数：45.8%で、2年間で国語：+26.7ポイント、算数：+25.2ポイント向上している。）

学力層別人数割合から見える成果と課題

表1・表2において、学力層別人数割合をみると、小学校では、小3の国語を除く学年と教科でA層の割合が増加している。特に、小6の国語では、前年度のD層は30%であったが、26.9%に改善された。

小1のD層の割合は、昨年度・一昨年度と同様に30%以上であった。（昨年度・一昨年度の児童は小2になると、D層の人数割合や達成率は改善されたため、同様の傾向があると考えられる。）

また、国語・算数ともにC層とD層の平均スコアの差が大きく、一部の児童が基礎的・基本的な知識・技能が未定着だったと考えられる。さらに、小4については、A層とD層がそれぞれ増えた結果から、学力差が広がったと考えられる。

中2英語については、D層の割合が減りA層・B層の割合が増加している。本市の生徒が、全国の総受検者と比較して高かったことがわかる。中2社会については、中1の時よりD層の割合が増加し30%をこえる割合となった。ただし、達成率は改善しているため、本市生徒が、全国の総受検者と比較すると伸びていないと思われる。（昨年度の中2社会でも同じような結果であった。）地理と歴史を比較すると、達成率には大きな差はみられなかった。他教科と比較すると、社会はC層の生徒の達成率が低かった。

(2) 生活実態調査

平均スコア

表3において、同一学年における平均スコアの推移をみると、多くの学年とそれぞれのカテゴリで肯定的な回答割合が増加している。特に、「③学級力」については、2018年度と2020年度を比較すると、全学年で肯定的な回答の割合が増加している。

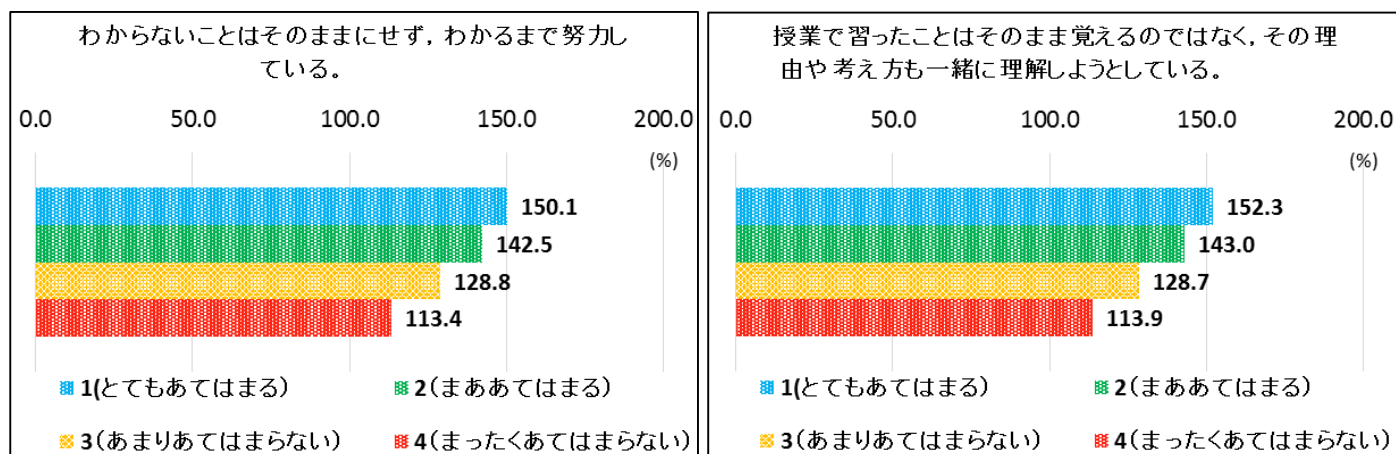
注目する質問項目

表4において、「パソコンやインターネットを使う」、「社会で問題になっていることについて、どうすればよいか、考えたことがある」、「友だちをばかにしたりからかったりせず、一人ひとりの心や命を大切にする学級です」の質問項目については、年度上がるごとに肯定的な回答が増加している。これらは、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、家庭でオンライン学習などを利用する機会が増加したり、児童生徒が社会や世界の出来事に関わり合う機会が多くなったりしたことが要因だと考える。

7 分析・考察

(1) 小6における学力調査と意識調査の関係

3年間の経年変化から、特に学力が向上した小6の学力調査について、国語・算数の正答率の合計と意識調査との関係をクロス分析し、顕著な項目を抜粋した。



「わからないことはそのままにせず、わかるまで努力している」と「授業で習ったことはそのまま覚えるのではなく、その理由や考え方も一緒に理解しようとしている」との質問に肯定的に回答した児童の方が正答率の割合が高い傾向が見られた。特に、「授業で習ったことはそのまま覚えるのではなく、その理由や考え方も一緒に理解しようとしている」の質問については、表では示していないが、学年が上がるに伴い、「2 (まああてはまる)」と「3 (あまりあてはまらない)」と回答した児童の正答率の差が広がっている。

(2) 中2社会科に関する学習方法について

今回、中2社会のD層が6.3%増加した。その中でも、D層の人数割合が増加していない中学校が3校あり、この3校と他の学校で、学習方法に関する質問項目の結果を比較した。その中で、肯定的回答をした生徒の割合で5ポイント以上差が見られた項目を抜粋した。

特に「社会の授業で、グループで話し合いや教え合いをしている」の質問については、37.3ポイントの差が見られた。

質問項目	3校平均	3校以外の平均
社会の授業で、調べたことを、新聞形式でまとめたことがある。	50.1	34.7
社会の授業で、グループで話し合いや教え合いをしている。	77	39.7
社会の学習をして、わが国と世界の国々の様子、歴史の流れや各時代の特色がわかり、もっと知りたいと思った。	72.6	64.1
社会の学習内容でわからないことや疑問を持ったことについて、自分から調べるようにしている。	51.6	44
地域や国土の自然を守るために、自分にできることを見つけてそれを実行している。	47.1	41.2

(3) 学力推移と意識の変化

同一母集団で小6時と中2時の学力調査結果から、学力推移をグループ化し、グループごとに質問項目の回答の変化を分析した。その中で、顕著な結果がみられた項目について図1, 図2に示した。

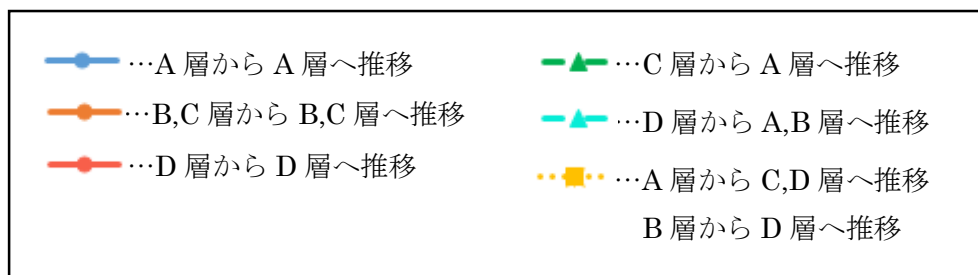


図1

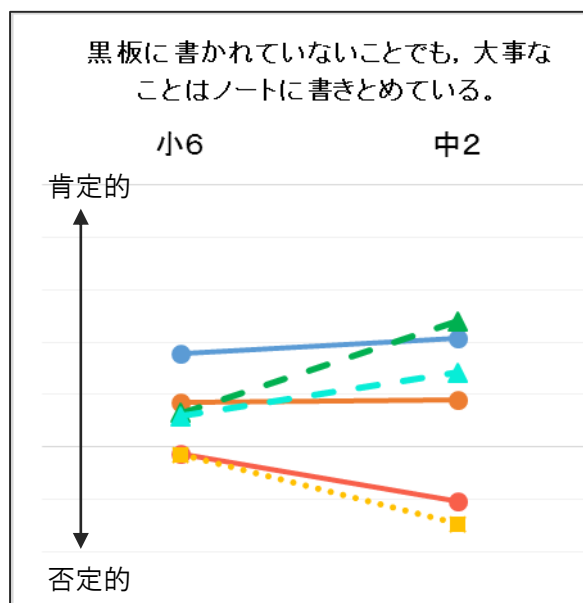
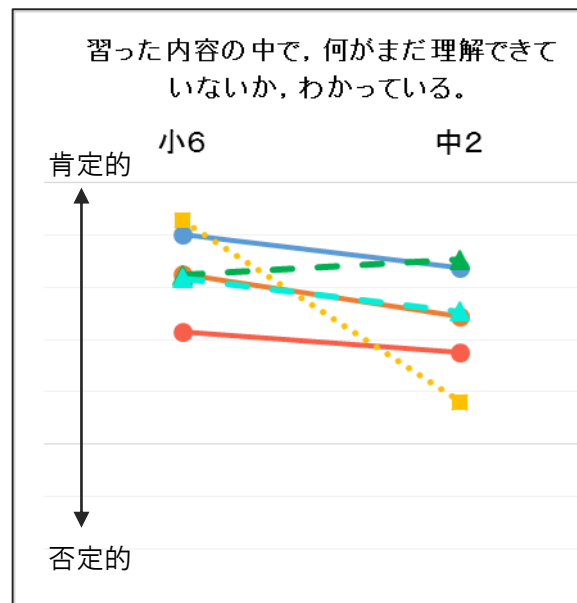


図2

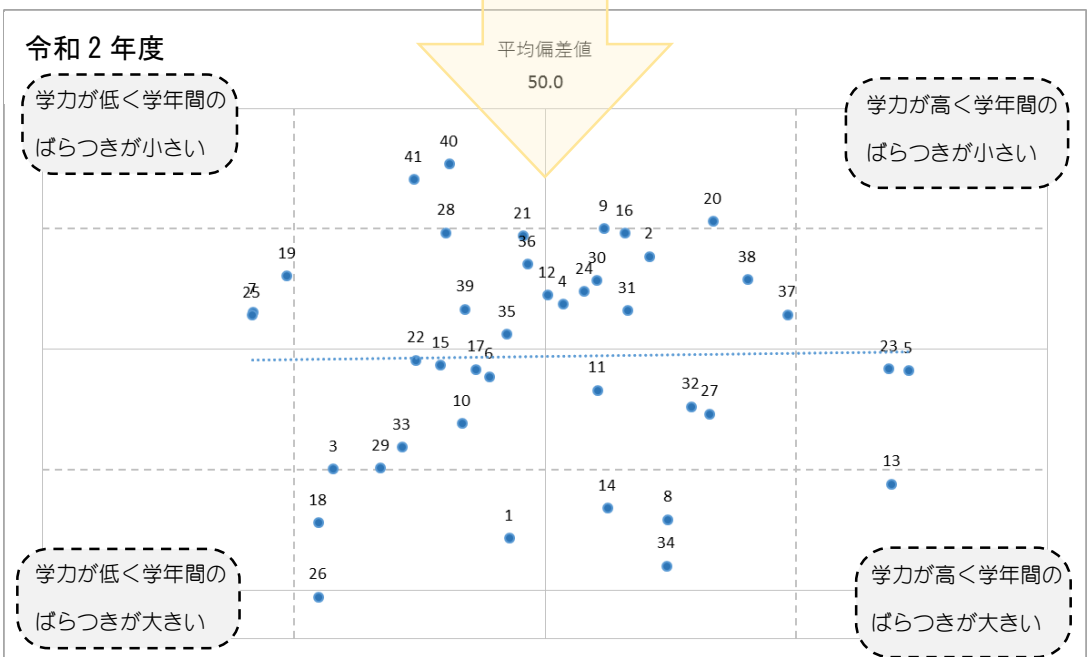
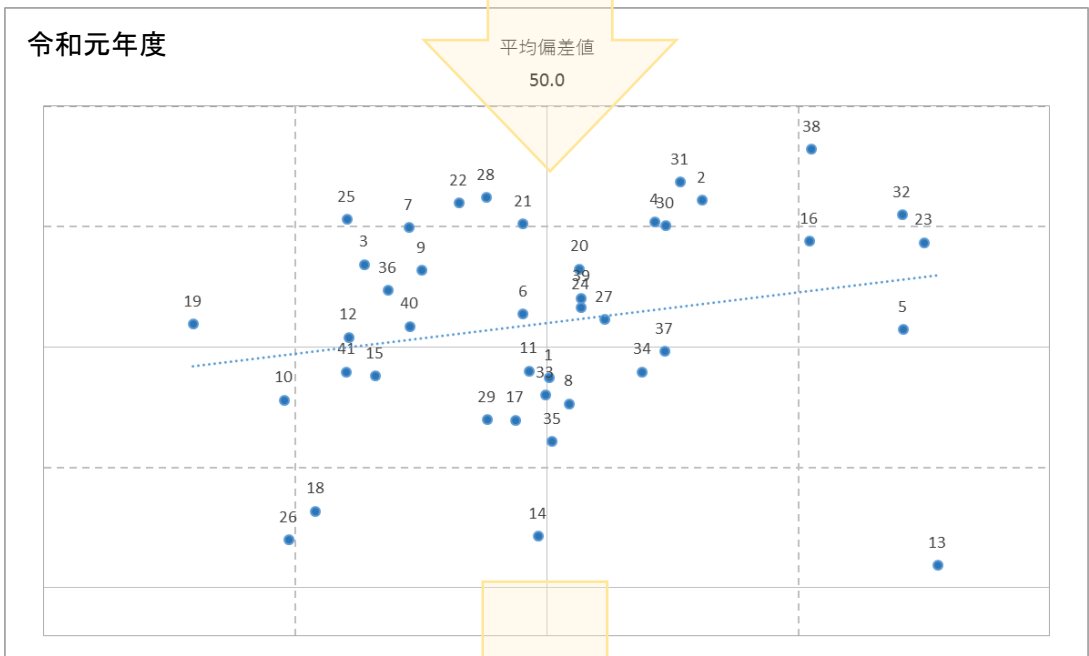
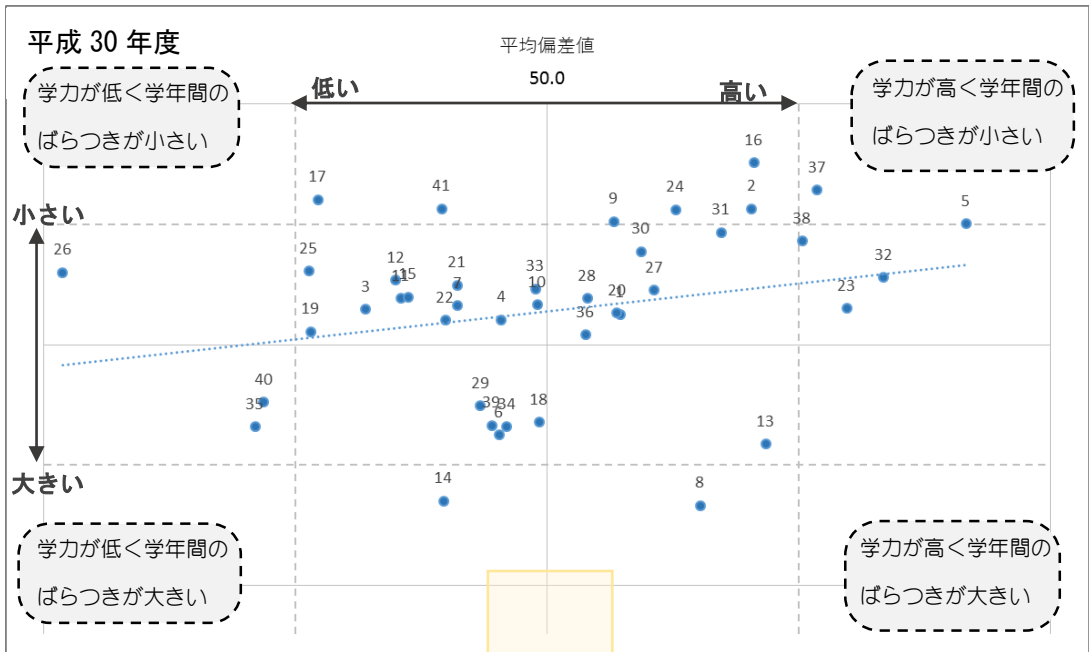


「黒板に書かれていないことでも、大事なことはノートに書きとめている」の質問では、特に、「▲—▲ C層からA層へ」「▲—▲ D層からA, B層へ」グループの回答が肯定的になっていることがわかる。また、「●—■ A層からC, D層へ推移, B層からD層へ推移」グループは、小6時から意識が低いまま変化していないことがわかる。黒板に書かれた内容を書き写すだけでなく、例えば、協働的な学習の場面で、自分の考えを他人の意見と比較しながら書きとめたりするなどの指導を行うことが必要であると考え。

「習った内容の中で、何がまだ理解できていないか、わかっている。」の質問では、特に、「●—■ A層からC, D層へ, B層からD層へ」グループは、回答が否定的に変化していることがわかる。課題(問い)に対して、試行錯誤したプロセスを振り返り、自らの「学び」を見つめ直させる指導が必要であると考え。

(4) ばらつきの経年変化

次ページは、小学校における学校間・学年間のばらつきを、経年で比較した。比較結果から学校間の差が改善されていることが確認できる。



8 まとめ

小学校においては、調査を開始した平成30年度から年々、多くの学年でD層の減少が確認された。帯学習や放課後学習を全校で取り組んできた成果だと考えられる。一方中学校においては、教科による結果のばらつきが見られた。

今後は、引き続き「基礎学力の保証」に取り組むとともに、特に中学校においては、市内教科研究会とも連携し、昨年度末に作成した「授業デザイン3つの視点」（ゴールイメージの共有，課題（問い）の設定，ふりかえり）を活用し授業の質的改善を進めていく。

また、指導主事による授業改善・学力推進チームの学校訪問では、調査結果に基づいた各学校の取組に対して指導助言を行い、その際、成果を上げている市内の他の学校の取組を情報提供していく。さらに、各学校から選出された教員で構成する「授業力向上研究部会」や、各校の管理職や学力向上担当者等が集まる情報交換会において、調査結果を有効に活用している学校や、意識調査において良好な学校の取組を、市内で共有するなどして横展開を図っていく。